

令和7年度 吾田東小学校の主題研究

① 研究主題及び副題

子どもが自らの力を発揮し、互いに高め合うことができる授業の在り方
～ ①・②・③に沿った子どもの学びを支える指導を通して ～

② 主題設定の理由

社会の変化が加速を増し、複雑で予測が困難な現代社会では、私たちが日常生活で遭遇する様々な課題に対して自分で考え、判断し、行動する力を身に付けていく必要がある。

そのために、学校では子どもたちに様々な課題を主体的に捉え、他者と対話しながら解決していこうとする力を育てていく必要がある。

そのような力を育むべく、宮崎県教育委員会では「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力」、「学びに向かう力・人間性」の3つの資質・能力を子どもたちにバランスよく育成するために「学びに向かう力を育むひなたの学び」を推進していくこととした。

「ひなたの学び」を推進するためには、「教師がどのように教えるか」という考え方ではなく、子どもが自分の力を発揮し、互いに高め合う授業の中で、「子どもがどう学ぶかを支える教師の在り方」へと、支援に対する考え方を変えていく必要がある。

本校児童は諸学力調査の結果、得点率では全国平均かやや低い傾向にあり、特に「知識・技能」面での個人差が大きいことが分かった。また、不登校、不登校傾向の児童、落ち着いて授業に参加することが苦手な児童等もいる。これには様々な原因が絡んでいると思われる。

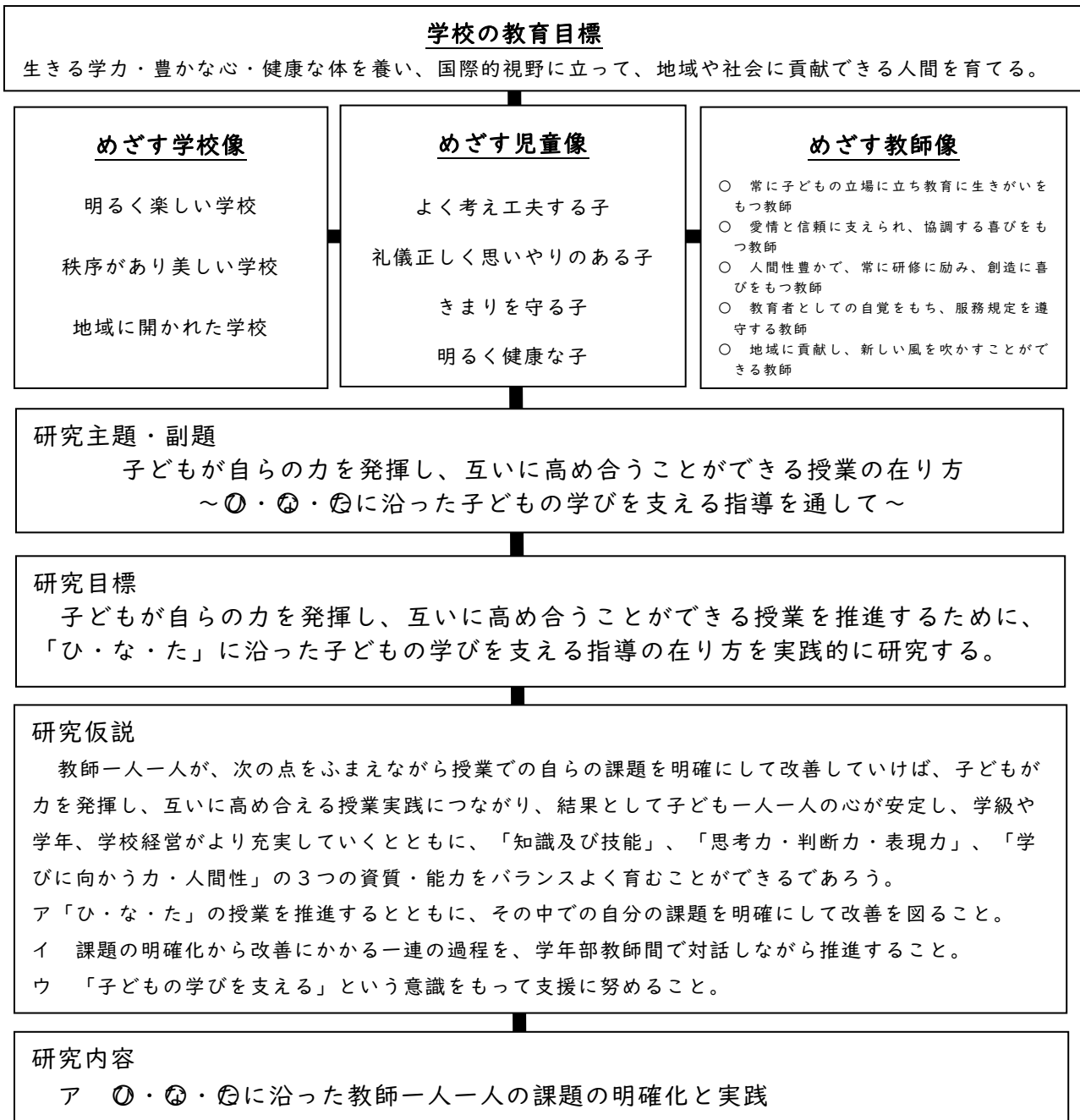
それらの課題を改善する方策の一つとして、本校では令和6年度まで「主体的・対話的に学び 学力を高める児童の育成」を研究主題として、「ひなたの学び」を推進するとともに、ICTを活用した指導の在り方について研究をしてきた。その結果、「ひなたの学び」を意識した授業実践につながり、意欲的に学習活動に取り組むようになった児童が増えたことなど、一定の成果をおさめることができた。

このようなことをふまえ、今年度は、継続して「ひなたの学び」に沿いながら、子どもが自らの力を発揮し、互いに高め合う授業にしていくための教師の支援の在り方を研究していくこととした。

研究推進に当たっては、昨年度までの研究をふまえつつ、各教師がより主体的・対話的に授業力を高めるために、「ひなた」に沿った各教師の課題を洗い出し、学年部間でそれを共有しながら解決していくことで授業力の向上を図っていくこととする。

主題の「子どもが自らの力を発揮し、互いに高め合うことができる授業」が推進できれば、多くの子どもが学ぶ楽しさを感じ、満たされていくと思われる。それが子ども一人一人の心の安定にもつながり、学級や学年、学校経営がより充実していくとともに、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力・人間性」の3つの資質・能力をバランスよく育むことができるものとする。

③ 研究の全体構想図



④ 研究計画

月／日	主な内容	研究方法
6月 4日	本年度の研究の方向性について・意識調査	全体
6月18日	児童の実態把握→育成する資質・能力の明確化	学年部
7月25日	「ひなたの学び」についての共通理解（外部講師）	全体
8月22日	「ひなた」に沿った各教師の課題の明確化	個人
9月24日	学年部で課題の共有	学年部
10月15日	実践を通して、成果と課題の明確化	個人
11月12日	学年部で成果と課題の共有、意識調査	学年部
12月25日	研究の成果と課題	全体
1月14日	本年度のまとめ、次年度の研究の方向性について	全体

(参考資料)

1 ひなたの学び



ひなたの学び

「日本のひなた宮崎県」では、幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校と、すべての学びの場において、家庭・地域と連携しながら「ひなたの学び」を推進しています。

ひとりひとりが **問いをもち**
どうして？なぜ？と問いをもちます

なかまとなって **学び合い**
いろいろな人とつながり、学び合い、考えを広げます

たかめよう **深く考える力**
自らの問いに対して、深く学び、さらに伸びていきます

「みやぎのこども」は、ひとりひとりが、生き生きと、すすんで学び、さんさんと光る太陽のように、みやぎの未来を明るく照らしていきます。

宮崎県教育委員会

2 東小スタイル



東小スタイル

みんなでそろえる学びの楽しさ

☆姿・形が整えば、自ずと内も整う ～立席・1分前着席・黙想～
☆シンプルに ～学習内容の精選・学習道具・机椅子の整列～

授業改善のポイント

1. 子ども一人一人の理解度を1単位時間単位の授業の中で評価し、定着や習熟を図る時間が確保できているか？
2. 授業内容が精選されており、テンポや流れに配慮して授業を進めているか？
3. 授業内容は子どもの理解にマッチしているか？(平均をやらせると子どもも理解できる内容か？)
4. 教師の動きや発問は明確で、子どもに伝わっているか？(言葉、話し方)

基本的な流れ(10～授業コッポード) 6 → 教材研究の視点 共通点 10 (10分以内)

1. 本時の学習の目的・目標・学習内容を明確に

□本時の学習に必要な学習事項の確認
→ 10分間で分かりやすく

2. 本時の学習の目的・目標・学習内容を明確に

□全員が本時の問題を把握する

3. 本時の学習の目的・目標・学習内容を明確に

□めあて・学習の見通し
□めあてを立てる
→ 何を学ぶか・ゴールイメージを教師も子どもも明確に
□学習の見通しをもつ
→ 各々の見通し・どのように学ぶかの見通し(学習活動の提示)

4. 問題を大切にしたい問題を提示して、議論は個人にかえす

5. 問題を大切にしたい問題を提示して、議論は個人にかえす

□解決方法を考え、問題を解決する

6. 問題を大切にしたい問題を提示して、議論は個人にかえす

□個人 → 4人・グループ → 全体

7. 問題を大切にしたい問題を提示して、議論は個人にかえす

□対話をしながら最後は「個人」の時間を「結果」を基盤として東側に立って話し合いの力を

8. 本時のまとめ

□学習のまとめ
→ 子どもの気づきを先かしながら
→ 本時の学習内容を明確に(めあてとの整合性)

9. 「分かった」「できた」を両端から確認、ふりかえり

10. 評価・定着

□評価問題の設定
→ 評価問題を設定し、確実な見届け
→ 評価問題の見届け後、理解が不十分な児童へは、個別指導で定着を

11. 評価・定着

□評価問題・練習問題
□定着を図る個別指導

12. ふりかえり

□学びのふりかえりを自分の言葉でアウトプット
→ 何ができたか・何を学んだかを言葉で